

平成21年度中間評価結果（平成21年12月）

[研究開発課題名] 機能性インクを使用した印刷ラベルによる偽造防止セキュアプラットフォームの研究開発
 [委託機関名] シヤチハタ株式会社

項目	評価 ランク	所見	再評価 ランク	再所見
総合所見	B	<p>(技術)</p> <p>サブテーマ1、2. については、中間評価時点としては十分な開発成果が出ており高く評価出来る。サブテーマ3も概ね順調であるが、様々な攻撃への耐性を高めるべく適切な評価と改良が必要である。提案者も理解している点ではあるが、サブテーマ4については、現在の体制では実システム化に困難を来す可能性があると考えられるので、早期に外部パートナーを決定し、一層の研究促進を行うことが適切であると考えられる。</p> <p>ラベルの印刷に提案技術を適用することにより、医薬品、製品・ブランド品、農産物流通における不正防止が期待できる。ただし、それぞれの適用領域における利便性要件、リスクなどは異なることが考えられ、それに伴う端末を含めたシステム検討が必要とされる。</p> <p>医薬品、製品などの類似品を防止するうえで必要性は高く波及性が期待できることから、早期にコンソーシアムなどを立ち上げて技術の普及と基盤確立に向けた取り組みが必要とされる。</p> <p>但し、ラベルに適用する限りは、ラベル剥がしなどの不正行為に対する適切な対策が施されていないと広範囲への適用は難しいと思われる。また、不要となったラベルの適切な廃棄など運用面の課題も挙げられる。さらに、来歴管理を行う場合、本提案ではサーバへの識別(1:n照合)の問い合わせが必須となり、無線タグとの優位性を明確にする必要がある。</p> <p>照合精度の評価を進めるとともに、技術的に検証すべき安全性、システム規模・パフォーマンスなどの達成目標を明確にする必要がある。</p> <p>提案技術は全般的には非常に高く評価出来るものであるため、国内市場に留まらず国際市場を意識した開発を期待したい。その一環として、当該技術のISO等のデファクト標準化にも期待したい。</p>	A	(技術)
		<p>(事業化)</p> <p>提案者は、企業ユーザへのアプローチを、RFIDやバーコードリーダの業界、ユーザに詳しい企業を通して行う体制としている。また、セキュリティに対する要求が高く最も需要が期待できる「医薬品偽造防止システム」から順に販売を行う計画としているため、事業化計画と事業化プロセス、パートナーとの連携は妥当である。また、nanoda社との連携によって個体認証技術の基本特許を抑えているため、知的財産の取得は妥当である。しかし、提案製品の具体的な適用市場セグメントと導入先が十分には特定されていない。また、市場規模と売上の推定の根拠が不明確であるため、目標以上の収益を達成するのは困難を伴うと考えられ、努力が必要である。</p> <p>また、収益の向上のために次の点を期待する。</p> <p>RFIDやバーコードが普及している状況では、利用者が高い初期コストをかけてまで、提案製品で置き換えるには、本製品の特徴を活かした分野への導入を図る必要がある。このため、本製品の提供にあたっては、まず、関連企業と連携した営業活動を行い、適用市場を特定し導入実績を積み上げていくことが必要であると考えられる。</p> <p>シェアと売上高の一層の向上のためには、操作の容易な小型読取装置の実現、システムの経済化が必要である。今後、このような製品化技術の開発と特許による権利化を期待する。</p>	(事業化) <p>提案製品の適用分野が具体的に示されたため、市場性が明確になり、また、低コストで、信頼性と操作性の高い提案製品を実現し、提携企業やディーラーを通して大手医薬品会社等への売り込みをさらに進めることにより、目標どおりの収益が得られると見込まれるため、事業化評価は基準に達したと判断する。</p>	

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しております。